

コード	名称	区分	コード	名称
事業名	378 次世代育成支援対策推進経費	会計	01	一般会計
		款	03	民生費
		項	04	児童福祉費
		目	01	児童福祉総務費
基本施策	10 少子化に歯止めをかける	細目	218	子育て支援対策事業
		細々目	52	次世代育成支援対策推進経費
行革大綱の重点事項番号				
担当部課名	コード	130700		担当者氏名
	名称	健康福祉部子ども家庭課		
		連絡先	22 - 9658 (内線) 2634	

事務事業の概要(Plan)

対象(誰を、何を)	市内の子ども及びその家族	※対象件数
成果(どうする)	次代の社会を担う子どもたちが健やかに生まれ、かつ育成される環境の整備を図られる。	
根拠法令・要綱等	次世代育成支援対策推進法、伊賀市少子化対策推進委員会条例、伊賀市保育所(園)のあり方検討委員会条例	
開始年度	平成 年度	関連事業
終了年度	平成 年度	
H23 事業内容	子育て中の情報提供として、子育て応援ハンドブックを作成した。次世代育成支援事業イベント「広げよう子そだてのわ」を実施した。また、輝け！いっがっ子応援プラン(伊賀市次世代育成支援地域行動計画)の後期基本計画の検証を行った。	
社会情勢の変化等	輝け！いっがっ子応援プラン(伊賀市次世代育成支援地域行動計画)については、平成22年度から後期計画に基づき計画の進行、管理をする必要がある。	

整備内容(「施設の建設」「整備事業」のみ記入)

1 建設用地	
2 建設面積(延床面積)	
3 規模・構造	
4 総事業費	千円

運営体制(「施設の建設」「施設の管理・運営」のみ記入)

1 運営主体(委託先)	[ ]
2 配置人員	人
3 年間運営費	千円
4 市内の類似施設	

事務事業実施にかかる業績とコスト(Do)

活動指標	指標名	単位	実績値		目標値	
			H22	H23	H24	H25
少子化対策推進委員会の開催	回	目標	2	2	1	2
		実績	1	1		
伊賀市次世代育成支援対策(ソフト交付金)	ポイント	目標	-	-	-	-
		実績	-	-		

成果指標	指標名	指標設定の考え方	単位	実績値		目標値	
				H22	H23	H24	H25
次世代育成計画に係る実績及び実施計画の公開	回	事業実績及び進捗状況について、委員会での討議概要と併せて公開を行う。	目標	2	2	1	2
			実績	2	1		
伊賀市次世代育成支援対策(ソフト交付金)	策定	次世代育成支援対策の取り組み状況による評価ポイント。	目標	-	-	-	-
			実績	-	-		

投入コスト	直接事業費計(A)	H22 決算	H23 決算	H24 当初予算	H25 当初要求
		(千円)	(千円)	(千円)	(千円)
Aの財源内訳	国庫支出金	390	445		
	県支出金				
	地方債				
	その他				
	一般財源	390	445	493	493
事業投入人件費(B)		0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440	0.2人 1,440
フルコスト(A)+(B)		2,220	2,330	1,933	1,933

事務事業の評価(Check)

判断の基準(該当項目に○をつけてください)		備考欄(特記事項)
必要性	【必1】法律(条例は除く)で実施が義務付けられている事業 【必2】個人の力だけでは対処し得ない社会的・経済的弱者を対象に、生活の安定を支援し、あるいは生活の安全網(セーフティネット)を整備する事業 【必3】特定の市民や団体を対象としたサービスであるが、サービスの提供を通じて対象者以外の第三者にも利益が及ぶ事業 【必4】市民にとっての必要性は高いが、多額の投資が必要、あるいは事業リスクや不確実性が存在するため、民間だけではその全てを担いきれず、これを補完する事業 【必5】市民が社会生活を営むうえで必要な生活環境水準の確保を目的とした事業 【必6】市民の生命、財産、権利を擁護し、あるいは市民の不安を解消するために必要な規制、監視、指導、情報提供、相談等を目的とした事業 【必7】民間のサービスだけでは地域全体に望ましい質・量のサービスが確保できず、これを補完・先導する事業 【必8】受益の範囲が不特定多数の市民に及び、サービス対価の徴収ができない事業 【必9】市の個性、特色、魅力を継承・発展・創造し、あるいは国内外へ情報発信することを目的とした事業 【必10】事業開始からの目標・目的を概ね達成している事業 【必11】国や県、民間が同様のサービスを提供している事業 【必12】事業の対象や環境の変化により、事業ニーズが薄れていない事業 【必13】【○をつけた場合、ニーズの具体的内容、根拠となるデータ等判断理由】 財政状況を考慮し、事業を休廃止した場合、市民生活への影響が大きい事業 【○をつけた場合、影響の内容及び判断理由】	
有効性	【有1】事務事業の継続、達成度や実績を高めることで成果指標の向上が期待できる。 【有2】基本施策の目的を実現するために現在の事務事業の内容は適切であり、基本施策に対して貢献度も高い。 【有3】サービス水準や対象を見直す余地がある。	
達成度	【達1】当初設定した計画を 100% 実施している。【計画に遅れが生じている場合、改善策】 【達2】予算の繰越の有無 無 【予算の繰越がある場合、繰越の種別】	
効率性	【効1】他の事業主体の活用、事業移管が可能である。 【効2】基本施策の中で類似・重複する事務事業がある。 【事業名】 【効3】受益者負担を求めることができる事業である。 【効4】全体コストにおける負担構成は適正である。 【効5】コストに見合った効果となっていない。効果を絞り込むことでコストを削減する余地がある。	

昨年度の評価結果に基づく改善策への取り組み状況

改善策	イベントで子どもが喜ぶものの研究を行い楽しみながら、子育てのヒントを植えつけていけるような事業に取り組む。
昨年度の取組状況	【状況】 計画のとおり進んでいる 【詳細】 次世代育成支援事業イベント「広げよう子そだてのわ」において、各種遊びのプログラム、縁日、工作など子どもが喜ぶイベントを実施し、子育て講演などを通じて子育ての楽しさを実感できるよう取り組んだ。

今後の方向性(Action)

担当課長氏名	秋永 啓子
事業の方向性	【方向性】 現状維持 【理由】 昨年度は、子育て包括支援センターが建設され、それに伴う周知を兼ねたイベント等を開催したのが功を奏したのか、4月から順調にこのセンターへの利用は伸び、毎日子どもの声が途切れることなく利用もされており、イベントにおいても多くの参加者を得ている。次世代育成事業としては、計画にのっとり事業を展開しているが、本年度もこの調子で事業を展開し、多くの子育て世代に満足を得られるような方策を採ってきたい。
現時点における課題、その他	新規事業については、各世代から喜んでいただいているが、半面で、保育所の統合など、地域としては難しい問題もあるが、今後も計画に沿った事業の展開をしていく。
課題、その他に対する改善策(いつまでに、何を、どうする)	保育所の統合: 25年度か26年度: 佐那具保育所と府中保育園、25年度: 諏訪保育所とまるばしら保育所、26年度か27年度: 柘植保育園、柘植第2保育園、28年度以降: 神戸保育所、依那古保育所、依那古第2保育園、比自岐保育所 放課後児童クラブ: 26年度: 上野西部地区小学校、26年度: 河合小学校に設置 以上のための準備(地元交渉等)を行う。